

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 26 年度

事業所番号	2772401291		
法人名	医療法人 美盛会		
事業所名	グループホームくすのき		
所在地	大阪府枚方市養父東町18－30		
自己評価作成日	平成 26年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 7月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyoNoCd=2772401291-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 26年 6月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを尊重しながら、外出機会を増やし、イベントも取り入れるように努め、その人らしい暮らしを安全かつ快適に提供できるようにしている。私たちのモットーである「ゆっくり」地域住民と「いっしょに」交流をもち安楽な生活ができるよう支援する事業所を目指し、日々利用者様、ご家族様と職員と協働でQOLが向上するよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で活躍する医療法人が運営する1ユニットのグループホームです。当ホームは同法人が運営する介護老人保健施設及び有床診療所と併設しており、医療ニーズの高い利用者も受け入れ、医療スタッフと連携して終末期支援にも取り組んでいます。ホーム内は広くバリアフリーになっており、ソファやイス等を配置して、利用者がゆったりと過ごしなが、自立した生活を送れるように生活環境を整えています。利用者は地域ボランティアの協力を得て、きり絵やクラフト等に取り組んだり、毎月1回食事づくりをしたり、おやつ作りや外食を楽しんだりしています。職員は活発で、毎日の生活にリハビリを兼ねたレクリエーションを取り入れ、利用者が元気に過ごせるように支援しています。協力医療機関との連携も良く、法人のバックアップもあることから、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を職員全体で確認したうえで理念をつくり、常に見やすい場所に掲示し、再確認するようにしている。	理念と9項目の目標を玄関と職員室に掲げ、ホームの設立意義や地域を大切にした役割を共有しています。また、理念を行動指針とした職員一人ひとりの今年の課題を書き出して職員室に掲げ、日々新たな思いで取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園などに利用者と共に出掛け、近隣住民の方と挨拶したり、声を掛け合ったりしている。 地域の文化祭や盆踊り、区民体育祭等に参加したり、地域ボランティアの訪問などもあり、交流を図れるように努めている。	散歩や買い物に出かける時は積極的に声かけをして、近隣住民との繋がりを大切にしています。近隣のセラピー犬との継続的な交流やクラフトアート指導者等のボランティアを受け入れたり、地域行事へ参加したりするなど、機会づくりに努めています。法人内の他部署の協力を得て、認知症のサポーター研修を開催し、近隣住民の参加を得るなど、認知症の人への理解を広めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の代表の方々と話し合っており、廃品回収にも取り組んでいる。地域の老人会等の行事も教えていただき、参加できるものには参加して、地域に向けて理解や支援の方法を発信できればと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況や行事の内容を報告し、様々な意見を頂くようにしている。また、家族には記録を閲覧できるようにしている。	運営推進会議は2ヵ月に1回、年6回の定期開催をしています。メンバー構成は、利用者、利用者家族、地域住民の代表者(自治会長・福祉委員会部会長)、地域包括支援センター職員、ホーム職員を委員としています。最近では中学生の職場体験の来訪報告、インフルエンザ・ノロウイルス対策の成果、職員の異動・退職、外部評価受審、地域に向けての認知症サポーター研修開催、地域の身寄りの無い方の葬儀支援、徘徊高齢者SOSネットワークの始動と登録方法、運営推進会議の開催意義、地域やホームの行事予定、くすのき便りの発行等について、情報交換を行い、話し合っています。職員は、出された意見や提案を、ホーム運営に活かすよう取り組んでいます。	利用者または利用者家族の出席については、今後更に積極的な声かけを行い、日程の検討、話題の工夫等を検討してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当窓口との情報交換に努めている。また、同じ地域内のグループホーム交流会で情報交換を行っている。	市の担当者とは、日頃よりホーム運営について、利用者支援について相談しながら進めています。同じ地域内のグループホーム交流会でも、市の担当者と話をする機会があり、必要に応じて情報交換等を行っています。また、事故報告は、市担当課へ迅速に提出しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などにより理解を深め、玄関の施錠を含めて身体拘束ゼロに取り組んでいる。	運営規程第18条に「身体拘束」の項を設け、身体拘束を行わない方針を明確にしています。年に2回、内部研修で身体拘束について学び、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。日中は玄関やホーム内の出入り口等をすべて解錠し、「鍵をかけないケア」を実践しています。利用者が外出を希望される場合には、職員が付き添い外へ出るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などにより理解を深め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ十分ではないが、今後学ぶ機会を持ち、何かあれば支援していきたいと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分な説明を行い、家族・利用者共に理解・納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置するとともに、月に一回介護相談員の受け入れを行っており、利用者・家族が外部者に相談できる体制を整えている。またご意見箱も設置しており、不満や意見、苦情などを自由に表明できるよう配慮している。	家族が来られたら利用者の状況を報告し、要望や意見等を聞いています。3ヵ月毎に「くすのき便り」を発行し、ホームでの取り組みやイベント、利用者の様子を写真も掲載してお知らせしています。また、毎月利用者一人ひとりの様子を手紙にして家族に報告しています。運営推進会議に家族の参加を呼びかけています。	ホームでは家族から気軽に意見や要望を出してもらえるように、家族と職員間で「連絡ノート」を作成し、相互に情報交換ができるように取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなど職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。	管理者は、日常的に職員の声を聞くように努めています。また、ミーティングや職員会議で出された意見・提案等は、職員の合意を得て、ホーム運営に活かしています。職員一人ひとりが1年間の目標を出し合い、ホーム内に掲示して実現するよう取り組んでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の話に傾聴し、意見を聞き入れ、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会・内部研修等を実施し、ミーティングなどを活用して話し合うようにしている。外部研修にも積極的に参加できるよう支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣事業所との交流会に参加し、積極的に情報交換を行い、他事業所の良い点を取り入れられるよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より予め情報を収集し、その上で本人自身から話を聴く機会を設け、それを真摯に受け止めることにより、信頼関係を築くように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を十分に持ち、不安・要望を受け止め、関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、グループホームでのサービス提供が適当か否かを判断し、必要に応じて他のサービスを紹介するなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、言葉遣いや対応に留意し、支えあう関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人・家族としっかり話しをし、家族に理解していただき、連携・協力しながら本人を支えていくよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の品等で部屋作りを行うなど、支援に努めている。	友人や知人の来訪時には、ゆっくりして行かれるよう声かけをしています。希望があれば、利用者が電話をかけたり手紙を書いたりする際の支援をしています。遠くに離れている家族等に連絡をして、できるだけ利用者と会う機会が増やし、疎遠にならないよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することなく、利用者同士が関わり合い、支え合えるように積極的に声掛けを行い、レクリエーションや創作活動への参加を促し、関係の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族や移られた施設などに連絡を入れ、現況などを確認するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望に傾聴し、意向を把握した上でファイルを作成し全職員が把握できるようにして、利用者本位のサービス提供を心掛けている。	利用者の思いや意向については、その都度確認して対応しています。また継続が必要な内容については、記録に残して職員間で共有し、介護計画にも反映するよう努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報収集に努め、様々な角度から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	予めの情報収集から、或いは日常生活の中から現状把握に努め、ミーティングなどを通じて全体で共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、本人や家族の意向を十分に確認した上でスタッフで検討し、介護計画を作成している。その遂行状況・効果などを評価するとともに、状況や状態の変化、本人・家族の要望などに応じて見直しを行っている。	介護計画書は、利用者や家族の思い・希望を聴取し、担当する職員の意見や医師・看護師の指示等を確認した上で作成しています。職員はケアチェック表を記載し、毎月1回モニタリングを行っています。介護計画書は6ヵ月に1回見直しをしていますが、急な変化がある場合には、その都度見直しをしています。重度の疾患等により、食が細くなって一度に必要な食事量が摂取できない利用者や、職員の声かけに「自宅では何回にも分けて食べていた」と話す利用者もおられます。しかし、食事等の時間や回数については、ホームの決まりごととなっており、対応できていない状況です。	食事の時間や回数について、外出の機会が少ない利用者の支援など、利用者一人ひとりの状況に合わせた細やかな介護計画の作成が期待されます。法人の支援も得ながら、今後更に取り組んではいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入した上でミーティングにて情報の共有を図り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族の要望に応えられるよう、臨機応変な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じて民生委員やボランティア、自治会等の協力を得ながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関にて適切な医療が受けられるよう支援しているが、他病院での受診を希望されるような場合は柔軟に対応している。	医療機関の選定については、利用者・家族の意向を尊重しています。特に希望が無い場合には、協力医療機関にて適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常など相談しながら健康管理を行っている。また協力医療機関の看護師とも十分連携が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	密な情報交換により協力医療機関との連携は十分図られており、適切な支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を作成し、利用に際して十分な説明を行い、それに対して同意書をいただくようにしている。在宅医療を利用しながら医師、看護師と協働で支援に取り組んでいる。	「看取りに関する指針」をもとに、入居時には利用者・家族に十分に説明を行い、延命治療の希望等についても同意書に記入してもらっています。終末期には在宅医療を受けながら、家族と話し合い、医師や看護師と連携して看取り支援をしています。ホームでは、最近にも看取り支援を行った経験があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故防止に関する勉強会を開催している。またミーティング等で話し合い、情報の共有化を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年に2回消防避難訓練を実施している。また、備蓄は併設する施設に準備している。地域の消防訓練にも参加している。	消防署と連携し、災害時マニュアルに沿って年に2回の防災避難訓練を実施しています。訓練は同法人建物合同で行い、ホームでは利用者の安全確保を最優先した避難訓練を行っています。管理者や職員は地域の消防訓練にも参加して連携を進めています。災害時の備蓄については、隣接する法人建物内にホームの利用者分を確保しています。	備蓄については、あらゆる場合を想定し、ホーム内にも水や食料品等を一部でも保管してはいかがでしょうか。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングを通じて職員の意識向上を図るとともに、関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応を心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行うために、職員は法人内勉強会に参加し、ミーティングで話し合うなどして、関わり方を学び、日常の支援に活かすよう努めています。ホームでは、職員の交代等もあるため、引き続き研修を行い、意識向上に取り組んでいます。職員が業務上知り得た「利用者またはその家族の秘密保持」については、雇用契約の内容に入れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	利用者の意向を最大限に尊重するために、日頃から声掛けを密に行い、話し易い雰囲気作りを心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、一人ひとりの身体の状態や思いに配慮しながら、利用者本位の対応を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容店に行っていただくよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にそれぞれ役割を持っていただき、職員と共に盛り付けや後片付けを行っている。昼食はできるだけ利用者と同じものを食べるようにしている。月1回調理日をもうけ実施している。	朝食と夕食は、隣接する同法人厨房で作られたものが届き、利用者と共に配膳しています。昼食は食材を厨房から受け取り、ホーム内で調理しています。利用者は下ごしらえ、盛り付け、片付けなど、それぞれの得意な部分で役割を持っています。月に2回、調理日を設けて昼食作りをしたり、おやつ作りを楽しんだりしています。また、毎月のように外食へ出かけ、寿司や好みのものを味わい楽しんでいます。ホーム周辺に家庭菜園スペースがあり、ゴーヤやキュウリなどを育てて調理し、楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況を確認しながら、食事、水分摂取量が適切に確保されるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて支援しながら、毎食後口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄表を作成し排泄パターン等把握した上で、トイレ誘導等排泄ケアを実施している。また、便秘の方には下剤等を服用していただいている。	職員は自立支援を心がけ、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、おむつ類に頼らない支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量にも十分に注意を払いながら、日中はできるだけ身体を動かすよう促し、ストレッチ体操等を毎日行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回確保しており、シャワーはいつでも利用可能としている。利用者に合った浴槽を提供することも可能である。	週に3回は、利用者が入浴を楽しめるように支援しています。ほとんどの利用者は週3回の入浴をしています。それ以外にも清潔を考慮して、シャワー浴を勧めることもあります。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯等を準備し、利用者に喜ばれています。必要な場合には、同法人の併設施設にある特殊浴槽を利用することもできます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適切な室温の下、利用者一人ひとりの生活習慣や状況に配慮しながら、快適な睡眠が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は詰所にて管理し、食後一人ひとりに渡して服用を確認している。処方内容は職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月お楽しみ会、外出など利用者と相談しながら、できるだけ本人の希望に沿って行えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの生活習慣や嗜好に合わせ、散歩や買い物、催し等に出かけられるよう支援している。	外出の機会が多い利用者もいますが、体力の低下と共に外出の機会が少なくなっている状況です。毎日の記録欄に外出の項目が設定されていますが、週1回以上外出する利用者は少ない状況です。日頃、行けない場所への外出については、年間行事として取り組み外食も合わせて行うなどして利用者に喜ばれています。	外出を希望されない利用者にも週1回程度外出の機会を設け、外に出て景色を眺めたり、近隣の人々と触れ合う機会を持つ等して、気分転換できるよう支援してはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける際には、本人に財布を渡し、自分で支払いしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人と一緒にいえるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光など含めて、生活環境には十分配慮し、玄関やフロアには季節感のある作品などを展示したりしている。	玄関や建物周辺に花壇や菜園スペースがあり、年間を通じて草花や菜園を楽しめるようにしています。玄関にはみんなで作った作品を展示し、食堂兼居間には見やすいカレンダーや時計、大きく見やすいテレビを設置し、利用者が楽しめるよう工夫しています。また、居間や廊下など、数カ所にソファやイスを置き、利用者がゆっくりとくつろげるようにしています。廊下やトイレは広く、手すりを配置して、利用者が安心して生活できるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階の談話室などで自由にくつろげるよう配慮しており、独りで過ごされるような場面もよく見られる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	イス、机、これまで使用されていたタン スなど、利用者の好みや馴染みのものを配置しており、居心地の良い環境づくりに配慮している。	居室は広く、入口は引き戸になっており、風通しがよく解放感があります。洗面台、ベッド、収納庫が備えつけられ、利用者は出窓に写真やぬいぐるみ、作品や本等を置き、飾り棚のようにしています。また、使い慣れた家具類を持ち込み、ゆったりとした自分らしい生活空間にしています。職員は居室の空調に配慮し、清潔が保てるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリー構造になっており、廊下、トイレ内には手すりを設置しており、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		